

(様式3)

平成 27 年度 動物実験等に関する報告

国際水産資源研究所

項 目	報 告 内 容
1 動物実験等の実施状況	
(1) 実施件数	当該年度の実験件数の合計 2 件
(2) 使用動物種	①ハンドウイルカ、③コアホウドリ
(3) 関係研究課題数	当該年度の全実験課題数 2 課題
(4) 実験課題	① 小型鯨類の簡易標識タグの開発と評価 ② コアホウドリ飼育手法の開発
2 点検・評価結果	
(1) 所内規定の制定	国際水産資源研究所動物実験委員会規則 平成24年5月22日付け 24水研国第66号
(2) 動物実験委員会の設置状況・構成	委員長 (業務推進部長) 事務局 (業務推進課長) くろまぐる資源部委員(2名) かつお・まぐる資源部委員(2名) 外洋資源部委員(2名) ○開催実績 第1回:平成28年4月20日 (主な内容)平成27年度動物実験記録書について 平成28年度動物実験計画書について
(3) 動物実験等の実施状況	① 水産総合研究センター国際水産資源研究所と太地町立くじらの博物館の共同研究契約に基づき、小型鯨類へ装着する簡易標識タグの開発と評価を目的に、太地町立くじらの博物館で飼育されているハンドウイルカ1個体(雄)の背鰭に標識タグを装着し、装着の状況、個体の行動、健康状態等のモニタリングを行った。

	<p>②コアホウドリの飼育手法を確立することを目的として、洋上で、たも網により6個体を捕獲し、伊豆・三津シーパラダイスに運搬後、個体の健康状態をモニタリングしながら飼育し、飼育実験の後、全個体放鳥した。</p>
(4) 教育訓練等の実施	<p>本部にて開催された H27 動物実験勉強会に委員長が出席し、プレゼン資料等を所に持ち帰り、関係者に配布した。</p>
(5) 実験動物の飼養等	<p>①実験個体の行動や健康状態に問題はなかった。その後も個体の飼育と健康管理は、日本動物園水族館協会倫理要綱に従って実施し、各個体の状況に応じて適切に餌料を選択し、適切な量を給餌しているが、いずれの個体も健康状態に問題は生じていない。</p> <p>②コアホウドリを捕獲してから4日後、伊豆・三津シーパラダイスにおいて飼育を開始した。飼育期間中は、サバ類1-2尾、もしくは、サバ半身を与えた。加えて三日に1度、ビタミン剤を投与した。体重は毎日計測し、体温は3日に一度計測を行った。採血は捕獲時に1回、飼育期間中に6回行った。また、飼育期間中にケージに入れ、排泄物の回収を行った。放鳥時には、体重を給餌制限前の水準に戻した。全43日の飼育実験の後、供試個体を館山港よりカツオ漁船で輸送し、洋上にてすべての供試個体を放鳥した。</p>
(6) 総合評価	<p>適切に実施されたものと認める。</p>